

議事録

件名：令和2年度第2回さぬき市地域公共交通会議

日時：令和2年（2020年）7月31日（金）午後1時30分～3時30分

場所：さぬき市役所寒川第2庁舎2階203会議室

出席者：紀伊会長、尾崎委員（会長職務代理）、佐藤委員（代理出席）、
六車（誠）委員、白山委員、六車（均）委員、松本委員、山内委員、
頼富委員、村上委員、溝渕委員、宮本委員、木村委員、
近藤委員（代理出席）、佐々木委員、中野委員、南委員、藤本委員、
宮崎委員、元山委員、西丸委員、堀委員

事務局：（都市整備課）津田課長、満濃主幹、津村副主幹

傍聴者：0人

（新型コロナウイルス感染症予防対策の一環として傍聴受付なし）

配布資料：資料1 さぬき市コミュニティバス再編案説明書
資料2 さぬき市コミュニティバス再編ルート案
資料3 新規・移動バス停等一覧
資料4 実証運行用ダイヤ案
資料5 乗継特徴一覧
参考資料 出前講座「私の時刻表づくり」PRチラシ

【次第】

1 開会

事務局 さぬき市都市整備課 津田課長

2 会長挨拶

紀伊会長

3 議題

(1) さぬき市コミュニティバス実証運行について

事務局：資料説明（資料1、2、3、4、5）

会長：それでは皆さんからご意見や質問をいただきたい。資料の順に、まずは資料1について意見はあるか。続いて資料2については資料3との関係がとても深いため、資料2と資料3に関して、ご意見はあるか。運行事業者と検討された結果であり、まだ微調整は必要だが、この案で概ね実証運行を実現できるということによろしいか。ご意見はあるか。

委員：前回、宮西などの観光地・歴史の話をしたと思うが、それ以外の視点として地域について質問する。JRオレンジタウン駅停留所は新しくできるJRオレンジタウン駅東側の停留所と共用ということだが、休止バス停の46・148・190人の大体400人は、新しく変更される路線で確保できる予想がたっているのか。

事務局：資料3にある「JRオレンジタウン駅」は、「オレンジタウン駅東側」と共用との記載があり、長行・日切地蔵・宮西の人数をフォローできるほど乗車するのかという質問だが、オレンジタウンの住民とJR造田駅周辺の住民ニーズを考え、乗ると予想しているが、実際に乗るかどうかについては実際に運行してみないとわからない。長行・日切地蔵・宮西を外すのは悩んだが、都市整備課で同時進行で取り組んでいる都市計画マスタープランや立地適正化計画を策定する中で、居住誘導区域にオレンジタウンを設定していく方針があることも踏まえ、オレンジタウンの中を走らせることに取り組んでみたいと考えている。実証運行する中で乗車数が思ったほど伸びない場合は元に戻すことも視野に入れながら、実証運行に取り組むつもりである。

会長：他に質問はあるか。事前に把握することは難しい部分もあるが、現状の居住者の状況について、新しい路線の周辺には住宅が多い現状があるのか。

事務局：長行・日切地蔵・宮西の範囲は広く、住民もたくさんいるが、オレンジタウンについては住宅が密集し、高齢化しているため、実証運行してみたいと考えている。

会長：ルートによって利便性が変わるという面もあるが、新しいルートになると今まで利用していなかった方への、資料1の5頁に記載しているPRによっても利用者数も変わってくるため、合わせて検討してほしい。他に意見はあるか。続いて資料4について、資料5も参考にしながらご意見はあるか。

委員：志度・造田・多和線について、デマンドで運行するのは中山から多和駐在所前で、大窪寺から天体望遠鏡博物館前もデマンドになるのか。電話で対応して時間外も受け付けるのか。

事務局：大窪寺から天体望遠鏡博物館前だけのデマンド運行はしない。時間外の電話対応は想定していない。

会長：点線部分がデマンド交通ということでもいいか。

事務局：そうです。今、時刻表内に書き込んでいる説明文では解りにくいということがわかったので、記載内容を調整して掲載する。

会長：他に意見はあるか。

委員：JR事業者として、運賃面での高校生への支援についてはJRからコミュニティバスに乗り継ぎする方もいるため、非常にありがたい施策だと思う。乗換ポイントを作成いただいたが、JRもダイヤ改正を検討しているため、朝の時間帯は変わらないと思うが早目にお知らせしたほうがいいのか。本日の会議出席に向け、JRからコミュニティバスに乗り継いだのだが、JR志度駅から乗車するため、駅前のベンチで待っていたが、待っている方が10人程いたため、ベンチに座れない方がいた。乗継拠点の整備ということで協力していく必要があるかと思う。前回の利用時に利用していたお客さんとの話で、マルナカ志度店に停まってほしいという意見があったが、今回入っていたので良かった。

会長：乗継拠点でJRにご協力いただけるということはとてもありがたい。割引について事務局から何かあるか。

事務局：JR志度駅や琴電志度駅からコミュニティバスに乗り換えて、寒川庁舎の北側にある山王団地前で降りて通学している生徒がいると聞いているため、割引することで乗客が増えると嬉しい。JRがダイヤ改正する際には早めにお知らせいただきたい。乗り場のベンチの設置は増やしていきたいと考えていたためご協力をお願いしたい。

会長：実証運行の内容が詳細まで形になってきました。様々な意見をいただき、微調整はあるでしょうが大きな変更点はありませんでした。地域公共交通会議として、この案で実証運行を行うことを了承してよろしいか。

委員：〈一同異議なし〉

会長：了承を得ることができたので、次の議題について事務局から説明をお願いしたい。

（２）実証運行に係る広報活動について

事務局：資料説明（資料１）

会長：乗ると便利ということを理解してもらうということだが、ダイヤが変わるとすることで難しくなる部分が出てくるため、自分に合った乗り方・乗り継ぎ方を知ってもらうことも大切と思う。現在のお客様向けの車内掲示を見て知っている方もいると思うが、市単独でのPR活動では限界があると思う。路線の変更により新しく乗っていただける方に向けての広報や、出前講座が開催できるように、社会福祉協議会・女性団体・婦人会・自治会など各種団体にご協力いただく必要があると思う。いろいろなアイデアなどがあれば教えてほしい。

委員：警察では出発式などを行っている。テレビの力はすごいと思う。

会長：ご意見があった場合、後でも受け付けるが他にあるか。

委員：路線の再編検討を続けているが、地域の方の意見を踏まえた路線変更だと聞いている。実証運行中の利用状況に応じて変更していくという話だったが、切り替えは難しく、周知も難しいため、頻繁に住民が集まる場に行って説明することを繰り返す必要があると思う。資料1の5頁、利用促進策でメニューを多く用意しているが、もう少し、住民がイメージしやすく表現したほうがいいのではないかと。②や④については、モデルルートやMyダイヤなどをキーワードにキャッチコピーを作って上手に取り組みを行っているため、引き続きお願いしたい。評価・検証項目について、確認方法として、利用動向を調べるためのアンケート調査は継続するのが難しいため、継続的に把握できるような指標を使って評価をしたほうが長続きすると思う。気になる点として、徳島文理大学とは調整されていると思うし、運転手の拘束時間などの制約もある中で考えられたものと思うが、本当にJR志度駅を利用している学生が多いのかも含めて利用しやすくする策に取り組む必要がある。乗継をすべて良くしていくのは難しい部分もあるので、JR志度駅を中心に、乗継時間を過ごす空間の工夫も必要だと思う。もちろん行政だけでは無理で、地域の協力のもと、できればいいと思う。もう1点、資料4の中で、寒川・津田・志度線と津田・大川・寒川線は、乗換時に津田出張所で一度降りる必要がある。ここで乗換をする利用者が多い場合は新規路線を作った方がいいのではないかと考えた。例えば、JR志度駅から大川出張所に直接つながる路線だ。

事務局：「私の時刻表」の取り組みが専門家の方から必要な取り組みとご意見をいただき、ありがとうございます。コミュニティバスを大学生の通学に役立たせたいと思うが、大学側に全てを納得してもらえないようになっていないということで、どこまでサポートできるかを再度検討したい。乗り換えについては乗継乗車券があるため、うまく活用してほしい。以前はJR志度駅から乗り換えなしで谷町停留所に行っていたが、色々な都合で系統を分けたため、もう一系統増やして乗り換えなしにするという話については運行事業所と再度相談したい。

会長：5頁のPRについては香川大学とのコラボを行うことになっており、デザイン系の先生がかかわって利用促進を行うなど、空間の利用についてもかかわってもらえる可能性があるため、引き続きご協力いただきたい。また、卒業論文で新しいダイヤの情報化の研究を予定している学生もいるので、今後も連携していければと考えている。

委員：お年寄りがバスを使って買い物をする場合、利便性の向上を図るために、買い物カートをバス停まで持ち込めたり、家まで利用できたり、カート回収サービスを始めたり、といったことに店側に協力してもらうためにも、どの程度のお年寄りの利用

を見込んでいるかを把握する必要があると思う。例えば、マルナカに1回10円などで協力してもらうこともできるかもしれない。コミュニティバスを活用したビジネスモデルの募集をしてみてもどうか。そのビジネスモデルをお試しで行うことによりプラスアルファの収入を得られる可能性がある。面白いアイデアで継続していくことも考えられるのではないか。

委員：高齢者は荷物を持ってバスに乗ることが難しいときもあるため、ボランティアや社会福祉協議会の方に荷物運びサービスを旗揚げしてもらってアピールすれば、利用者が増えるかもしれない。最後は人と人とのつながり。それがなければ高齢時代は耐えられないと思う。

委員：荷物が運べれば高齢者の大量買いにつながるかもしれない。(お店側から)まとめ買いしましょう、との呼びかけもできるかもしれない。

会長：高齢者にたくさん乗っていただけるようにしたいので、実証運行で利用実態を把握したうえで(関連取組を)検討していく必要がある。また、商店との協力について可能性はあると思うが、制度的に可能なところとそうでない部分があるので、可能な場合は掘り下げて検討していく必要がある。他に意見はあるか。

委員：コミュニティバスは行政が主導で動くとき問題が出てくる場合があるので、交通事業者が主体となってバス停を考えたり、路線を作ったり変更していくことが本来だと思う。最近のスーパーの駐車場は広いが縦横無尽に車が走っていたりするので、駐車場内を歩くのはとても危険だと思う。スーパーの横にバス停を作ったほうがいいという要望だったが、欲を言えばスーパーの入り口にバス停を作ったほうがいいと思っており、入り口付近のイトインスペースをバスの待合室として使えるのではないかと考えている。そうすれば、買ったものを少し食べたり、雨風をしのぎながらゆっくりとバスを待つことも可能なので、そういう拠点を作ればいいなあと事務局とも話していたのだが、しかし、それを行政がやろうとすると商業施設との関係性からやりにくいこともあるので、商工会としてそういう協力を得られるように取り組めればいいと思う。ハードルは高いがやる価値はあると思う。さきほどの荷物の件だが、バス利用者向けサービスとして取り組んでいる地域もある。今、議論しているのは、現在コミュニティバスを利用していない方への利用促進策なので、新規利用者になろうとする方の立場で考えると買い物の荷物が一番心配だと思うので、そこをフォローしていくことで利用は増えると思う。コミュニティバスの利用者を増やすためには地域公共交通会議の皆さんの協力が必要なため、アイデアが出た場合は、それをどうすれば具現化できるかを話し合ってみて取り組んでいければと思っているので、引き続き協力をお願いしたい。

委員：荷物のスペースの問題もあると思うが、コミュニティバスの中に水などの大きなものを常時置いておいて、お店に行かなくてもバス停でも買える、コミバスでのお出

かけの帰りに車内で買って帰る、というような消費者目線でのビジネスモデルができるとありがたいかもしれない。工夫をすれば小銭は稼げる、収入増につなげていけると思う。運営主体を誰にすればいいかは分からないし、アイデアとして思いついただけだが、市営バスの、民間へのスペース貸しも検討の余地があるかもしれない。移動手段の確保、荷物問題など、キーワードを羅列する中で、アイデアのテーマが見つかる気がしている。

委員：コミュニティバスとは直接関係ないが、JR 高松駅から路線バス（イオン高松線）を利用したが、イオンモール高松で降りる場合は無料だが、その以外のバス停は有料だった。民間だからできるサービスかもしれないが、少し気になった。

委員：地域公共交通会議はさぬき市役所の意見を議論するのではなく、公共交通に対していろいろな主体の方から、私たちの団体ではこのようなことができるよ、というふうに、どのような協力ができるかという意見を出し合い、この場で了承されれば実施する、そういう場だと思っている。たたき台がなくては議論が進まないため、それを事務局に整理いただいているということで理解して、実現に向けてチャレンジしていく場にしていきたい。イオンですが、駅から遠い場所に店舗がある場合は、送迎バスを出している場合が多い。自前で送迎している場合と路線バスを使っている場合があり、イオンモール高松は路線バスを使っていて、現在は有料となっている。車で来る方は1回の購入金額が多いため駐車場を無料にしているが、徒歩や公共交通を利用している方は1回の購入金額は少ないが頻度が多いため、トータル的には購入金額が車で来ている方よりも高くなっているというデータもでていたので、公共交通で来店された方向けのサービスを検討するというアイデアもあっていいかもしれない。

委員：ペットボトルなどの大きいものを買おうと思えば、マルナカ志度店のバス停位置では少し遠く感じるので、コミュニティバスがスーパーの出入口近くまで入って行って乗せられれば安全だし、便利だと思う。

事務局：利用者のニーズはドアトゥドアで、より近いほうがいいと思っていることは理解しているので、バス停をつくる時には検討することにしていく。マルナカ志度店でいえば、バス車両を使うことから、敷地内に入るときの段差や、道路への出入りのしにくさが関係して現状の案になっている。荷物の量については、昨年度行ったデマンド交通の実験でジャンボタクシーを使った際、（車内が狭くて）買い物した荷物を置くのが難しかったという声があったため、ザ・ビッグ寒川店を通過する路線は小型バス以上のサイズで運行しようと考えている。また、新しくバス停を設置する場所がお店の場合には、車両ラッピングといった広告での協力や、バス停の設置に関する何らかの協力をお願いしていて、運賃収入だけに頼らない、その他の収入増加策も考えながら再編作業を進めている。お客様に頻繁に乗っていただければあり

がたいので、重たい荷物についてもサポートしたいのだが、運転手の負担が過重にならないようにしていく必要があるため、様々な協力をお願いしたいところである。ビジネスモデルの募集はとても面白いと思ったので、皆さんにご検討いただきながら様々な取組を進めていきたい。

会 長：さきほどのマルナカ志度店のバス停の設置に当たって、反対車線からバス停を利用したい場合、近くに横断歩道はあるのか。

事 務 局：横断歩道は近くにある。

会 長：交通安全には十分に配慮して設置してほしい。

(3) 今後のスケジュールについて

事 務 局：資料説明（参考資料）

会 長：次回からは、本会議を、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく法定協議会として取り扱い、地域公共交通計画の策定に向けた協議を行っていきたいと思うが良いか。

委 員：〈一同異議なし〉

4 事務連絡

事 務 局：次回案内

5 閉会